

1.1.2.6-07

「や」と「、」の使い分け

1.1.2.6-07_「や」と「、」の使い分け_ナレッジ

👉 『や』と『、』の句読点を3つ以上表現するときの違いは？

並列助詞の「や」は、文章の中に同じような言葉があったとき、その言葉と言葉を繋ぐことができる助詞です。

一般には、「AやB」と2つのものを並立して使いますが、3つ以上になると、「AやB、C、Dなど」と、Aに対する残りは1つのグループにまとめて、A対BCDという使い方をします。

ABCやDといったABC対Dの並立では使いません。「や」1文字でABCの3つの並列を受けるには、「や」は短すぎます。

BCDがひとまとまりのグループであることを示すために、例示をしめくくる「など」という副助詞が好んで使われます。「といった」の格助詞「と」と一緒に使われることもあります。

『や』を3つ以上連続で表現しても良いのでしょうか？

彼女と初めてデートしたのは、動物園だった。

①たくさんの動物がいたが、キリンやカバやサルやシマウマが彼女のお気に入りみたいだ。

②たくさんの動物がいたが、キリンやカバ、サル、シマウマが彼女のお気に入りみたいだ。

1.1.2.6-07_「や」と「、」の使い分け_ナレッジ

このように、『や』を使って関連した単語を繋ぎ合わせていくことは、文法として間違っていないです。

ただし、例文を見ても分かるとおり、文章が読みづらくなっています。

動物の名前をカタカナ表記にしていたので良かったですが、これがひらがな表記だったら更に読みづらくなるはずです。

こういった場合『、』の句読点を利用すると見やすくなります。

今回は先頭の『や』をそのまま使いましたが、全部『、』の句読点にしても問題ありません。

👉 『や』『、』はどのようなタイミングで使えば効果的なのでしょうか？

うちの高校でサッカーが上手いのは、真田や新庄、田中、長谷場、磯島あたりだね。

内容は、サッカーで有名な高校のレギュラーについてですが、この登場人物の中で一番上手いのは誰だと思いますか？

そう考えて文章を見ると、一番最初に出てくる『真田』が上手い印象を受けますね。

『新庄』でも間違いはなさそうですが、少なくとも『磯島』とは思わなかったはずです。

このように、『並列助詞』を使うと並んだ順番に効果が薄まっていきます。

※『や』『、』を使うことで、多くを語らなくても順番を表現することができるのです。

1.1.2.6-07_「や」と「、」の使い分け_ナレッジ

例文

「東京や神奈川、静岡、山梨では・・・」

「東京や神奈川、静岡、山梨などでは・・・」

「東京や神奈川、静岡、山梨といった地域では・・・」

一方、このように、**A**に対して残りを**BCD**とまとめて並立することから、**A>B**、**A>C**、**A>D**という重要度の順位が、話し手の主観によりできてしまいます。

例:

「A子や、B子、C子、D子は美しい」

という文があった場合、一番美しいのはなんとなく**A**子のような印象を受けてしまいます。これは、**BCD**の分散によるマイナス効果となります。

「A子や、B子、C子、D子は醜い」

という文があった場合、一番醜いのはなんとなく**A**子のような印象を受けてしまいます。これは、**BCD**の分散によるプラス効果となります。

1.1.2.6-07_「や」と「、」の使い分け_ナレッジ

読点「、」の打ち方—原則は10パターン

- ・以下はあくまで原則であって、規則や法則ではありません。
- ・「、」をつける目的は、意味の読み違いを防ぎ、理解を早めるための手助けとすることにあります。
- ・特に、⑦～⑨の、「長い主語や、述語との距離がある主語」「理解を助けるため」「朗読をするときの間」においては、主観がかなり入り込みます。
- ・読点は、きわめて短い文に上の原則を機械的に当てはめると、スピード感がなくなったり、時にはうっとうしく感じられたりもします。
- ・自分が読みやすくてわかりやすいと思う文章を参考にして、ほどほどに打ってください。

①接続助詞(ば・から・ので・て・が・のに・けれど・ても・し…など)のあと

私はダイエットしても、さっぱり体重が減らない。

②独立語(ああ、はい、もしもし、ねえ…など)のあと

ねえ、いっしょに行ってくれないかしら。

③接続詞(そして、しかし、なお、また、ゆえに、ちなみに、さて…など)のあと

そして、誰もいなくなった。

④同じ役割の動詞、形容詞、副詞などが並ぶ場合

明るく、風通しのよい部屋ですよ。
彼はこぶしを上げ、叫んだ。

1.1.2.6-07_「や」と「、」の使い分け_ナレッジ

⑤時、場合などを表す前置き文のあと(文全体を限定する場合)

私たちが到着したとき、彼はもういなかった。

⑥主語、述語、修飾語の位置関係が変わった場合

そのボールを、少年は強く握り締めた。

参ったよ、彼の頑固さには。

⑦長い主語や、述語との距離がある主語のあと

中国奥地で育った彼は、本物の海を知らない。

彼女は、駅前のスーパーの雑貨売り場で働いている。

⑧意味の取り違えを防ぎ、理解を助けるため

あわてて、逃げる泥棒を追いかけた。

⑨朗読するときの間を意識

そのとき、お寺の鐘がゴーン、ゴーンと、鳴り響いた。

⑩会話文のかぎカッコの前

長女は、「私が行くの?」と不機嫌そうに言った。